

強度行動障害の理解⑤

困っていることの体験

演習手順及び指示書（別紙配布）▲

国立障害者リハビリテーションセンター
発達障害情報・支援センター

発達障害支援推進官 加藤 潔

それぞれの地域で実施するときに

- ここで示している体験メニューは、「伝えられないもどかしさ」「意味のわからない苦痛」「見通しのもてない不安や恐怖」「情報処理の困難」「感覚の特異性」の5つから組み立てており、「障害特性の理解」の講義にあった7つの視点と連動させています。
- それぞれの地域で実施する際にも、これらの視点を意識した体験メニューを提供していただければと思います。
- 今回の研修では、できるだけ準備に労力をかけないですむようなメニューを示していますが、本人が困っているであろう体験メニューは、ここで示す他にもたくさん考えられます。それぞれのアイデアでよりよい研修の時間になるように工夫していただければと思います。

まずはグループで自己紹介

- まずはウォーミングアップ代わりにグループで自己紹介をします。
- 伝えることは、「名前」「所属」の二つと「趣味（ひとつだけに絞ってください）」についてです。
- 「名前」「所属」は普通に伝えてもらいます。ただし、趣味に関して伝える手段は「身振り」のみとします。伝え終わったら、他のグループメンバーに「伝わりましたか」と尋ねます。わかったグループメンバーには拳手をしてもらいます。その後、自己紹介をした人は正解を発表し、自分が行った自己紹介についての感想を一言話してもらいます。
- また、次の方は前の人をいいところをひとつ言ってから（むりやりでも探します）自己紹介を始めます。最後の自己紹介者のいいところは、一番最初に自己紹介した人が行います。そこで終了です。
- この時間では、進行役やパフォーマンス役、発表役などが当たりますが、自己紹介順に自動的に役割を移していきます。
- 自己紹介の時間枠は10分です。時間が余ったら、グループ内のさらなるフリーアイスブレイクに活用してください。

演習 1 -体験 I 伝えられないもどかしさ①

- パフォーマンス役の人 1 名に前方に集まってもらいます。
- この体験でのターゲットは、パフォーマンス役の人になります。時間枠は 5 分を上限に考えておきましょう。
- パフォーマンス役の人には次のように伝えます。
 - 1) グループのメンバーに伝えてほしいことがあります。声を出さずに指示書を読んでください。
 - 2) 伝える時に、言葉を話したり文字を書いたり（指文字も含む）唇を動かしたりしてはいけません。ジェスチャーゲームです。なお、メンバーからのいい答えに対する反応はOKです。
 - 3) 途中で「一音だけ言っていいです（同じ一音）」と指示するかもしれません。「一単語だけ言っていいです（同じ一単語）」という指示があるかもしれません。でも、それに期待せず、必死に伝えましょう。

伝えられないもどかしさ 指示書①

- 声を出さずに指示書を読んでください。
- グループのメンバーに次のことを伝えてください。伝える時に、言葉を話したり文字を書いたり（指文字含む）唇を動かしたりしてはいけません。ジェスチャーゲームとしましょう。

日本人の好きな食べ物ベスト3は、
寿司・カレーライス・ラーメンです。

- 途中で「一音だけ言っていいです（同じ一音）」と指示するかもしれませんが。「一単語だけ言っていいです（同じ一単語）」という指示があるかもしれませんが、でも、それに期待せず、必死に伝えましょう。

わかってほしかったのは…①

スライドで解答を示します。

日本人の好きな食べ物ベスト3は
寿司・カレーライス・ラーメンです。

演習 1 -体験 I 伝えられないもどかしさ②

- 次のパフォーマンス役の人 1 名に前方に集まってもらいます。同様のジェスチャーゲーム第 2 弾です。
- 時間枠は 5 分を上限に考えておきましょう。
- 他のメンバーの方にはこのように伝えます。
 - ★メンバーの方は「わかんない」「何？」
「ちゃんと伝えて」など、厳しい言葉を投げ掛けながら、決して正解を出さないようにお願いします。

伝えられないもどかしさ 指示書②

- 声を出さずに指示書を読んでください。
- グループのメンバーに次のことを伝えてください。伝える時に、言葉を話したり文字を書いたり（指文字含む）唇を動かしたりしてはいけません。ジェスチャーゲームとしましょう。

クジラやイルカは魚ではなく
人間と同じ哺乳類です。

- 途中で「一音だけ言っていいです（同じ一音）」と指示するかもしれませんが。「一単語だけ言っていいです（同じ一単語）」という指示があるかもしれませんが、それに期待せず、必死に伝えましょう。
- 今回はグループメンバーから悲しい言葉が浴びせられると思いますが（いい答えは返ってこないと思いますが）、心折れずに頑張りましょう。

わかってほしかったのは…②

スライドで解答を示します。

クジラやイルカは魚ではなく
人間と同じ哺乳類です。

演習 1 -体験 I 伝えられないもどかしさ③

- この体験はパフォーマンス役の人がターゲットなので、パフォーマンス役になった数名の方に聞いてみます。残り時間の量で尋ねる人数を調整します。

Q：身振り限定自己紹介やここでの体験で、強度行動障害の方々の困惑についてみなさんは何を感じたでしょうか。

A：いろいろな回答が出てくるかもしれませんが、少なくとも、【コミュニケーション（発信）の苦勞】に関する発言は引き出したいたところではあります。

演習 1 -体験 I 伝えられないもどかしさ④

- 使用するもの：指示書①②
- 特性確認シートとのリンクでは…

特性確認シート

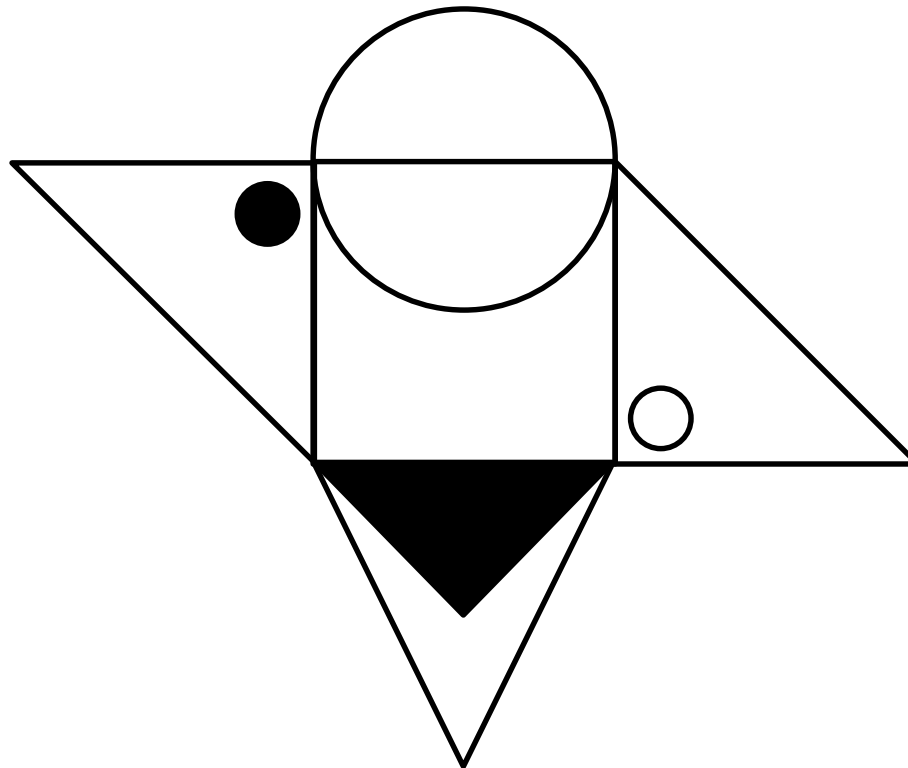
診断の基準に関する項目		【1】診断の基準に関係する行動の特性 現れている行動の例	具体的な行動	【2】その行動の背景にある要因として考えられること (認知・記憶／注意・集中／運動・姿勢などの特性も含む)
社会性の特性	人や集団との関係に難しさがある	人とかかわりが一方的である 相手の気持ちに関係なく行動する 一人であることを好む 同世代の人と上手に付き合うことができない 人が多いところが苦手である 複数の人とつよに活動することが難しい 周囲の様子から期待されていることを理解することが苦手である 他者に求められていることと自分に求められていることの区別が難しい	例えば、赤枠を付けた部分と体験との関連は受講者に伝えておきたい（黄枠部分は受講者の感想の中で触れられる可能性があることを想定しておく。もちろん他にも出てくるかもしれないが）。	見えないものの理解が難しい 曖昧なものの理解が苦手である 視線や雰囲気から読みとるのは苦手である 表情や声質など全体的な理解が苦手である 文字や数等、示された情報を理解することができない 情報の多いものやその処理が苦手である どこを見たらいいか、どこで活動したらいいかわからない 今あるいはさきしていたことを忘れてしまう 一緒に同じものを見て気持ちを通わせることが難しい／共感が少ない 気になることから抜けられない ものごとの関連性がわからない 刺激に影響されやすい 運動や手先の使い方が不得手で活動をこなせない 姿勢や動きがぎこちないためにやる気がないように見える 時間の流れを頭の中で組み立てられない 終わりが理解しにくい 手順が思いつかない ひとつの活動に集中しきれない その他
	状況の理解が難しい	年齢相応の常識(社会的なルール)が身につけていない その場にふさわしい(安全・迷惑等に配慮した)行動がとれない 周囲にどのように見られているかわからない 周囲のことに興味を示さない 活動への参加が難しい 自分勝手な行動をしているように見える 待つのが苦手である 自由時間を上手に使うことができない 危険と思われる行動をしてしまう		見えないものの理解が難しい ものごとの関連性がわからない 情報の多いものやその処理が苦手である 細部に着目してしまう 刺激に影響されやすい 聴覚に過敏がある(音・声など) 理解するのに時間がかかる 言葉の記憶の保持が難しい 音声言語ではうまく伝えられない 誰に伝えたらいいかわからない どうやって伝えたらいいかわからない やりとりをすること自体の意味がわからない 興味関心が強く狭い 相手の気持ちや状況の理解が難しい 言葉を処理する速度が他者と異なる その他
コミュニケーションの特性	理解が難しい	言語で指示をしてもすぐ行動ができない／指示されたことと違うことをする 決まりきった場面での言葉はわかるが状況が変わるとわからないことがある 相手の話の全体ニュアンスを理解することが難しい 相手の表情や視線、気持ちを読むことが苦手である／特定の表情や雰囲気だけに過剰に反応する 短い言葉でないとわからない(短い言葉ならわかることもある) 相手の言葉をそのまま繰り返すことがある(反響言語・エコーリア) 言葉の意味を勘違いすることがよくある(見て理解が得意) 抽象的で曖昧な(ちよつと、ゆつくり、なんとなく、だいたいなど)表現の理解が難しい 冗談や駄洒落、慣用語などが理解できない／字義通りの理解(言外の意味を把握できない)		見えないものの理解が難しい ものごとの関連性がわからない 情報の多いものやその処理が苦手である 細部に着目してしまう 刺激に影響されやすい 聴覚に過敏がある(音・声など) 理解するのに時間がかかる 言葉の記憶の保持が難しい 音声言語ではうまく伝えられない 誰に伝えたらいいかわからない どうやって伝えたらいいかわからない やりとりをすること自体の意味がわからない 興味関心が強く狭い 相手の気持ちや状況の理解が難しい 言葉を処理する速度が他者と異なる その他
	発信が難しい	行動(かんしゃく・パニック・身体表現・クレーンなど)で気持ちを伝える コマーシャルやアニメの台詞は言っても伝える手段で言葉を使えない 自分にはわからない言い方で伝えることがある(帰りがたくなると「りんご」と言うなど) 言葉の特定の機能しか使えない(要求のみ・あいさつのみ) 返事が相手の言葉の繰り返しになりやすい(反響言語) この場所ではこの台詞、この人とはこの台詞とお決まりの台詞が多い 文法が使えない(単語・二語文)／使えても助詞(がのにを)を間違える		見えないものの理解が難しい ものごとの関連性がわからない 情報の多いものやその処理が苦手である 細部に着目してしまう 刺激に影響されやすい 聴覚に過敏がある(音・声など) 理解するのに時間がかかる 言葉の記憶の保持が難しい 音声言語ではうまく伝えられない 誰に伝えたらいいかわからない どうやって伝えたらいいかわからない やりとりをすること自体の意味がわからない 興味関心が強く狭い 相手の気持ちや状況の理解が難しい 言葉を処理する速度が他者と異なる その他

演習 1 -体験Ⅱ 意味のわからない苦痛①

- パフォーマンス役の人 1 名に前方に集まってもらいます。
- この体験でのターゲットは、パフォーマンス役の人以外のメンバーとなります。
- 前半は 5 分の時間枠で考えておきましょう。
- パフォーマンス役の人には次のように伝えます。
 - 1) グループのメンバーに伝えてほしい図形があります。その絵を渡しますので、他のメンバーには見せないようにお願いします。
 - 2) 伝える条件は「言葉のみ」です。アクション一切なしでお願いします。「合ってます」「○○さんいい線いってます」など評価に関する発言はNGです。
- 他のメンバーには次のように伝えます。
 - 1) 他のメンバーはパフォーマンス役の人から与えられる情報で図形を再現してください。
 - 2) 隣の人を覗き見るのはOKですが、真似と相談はNGです。制限時間を設けますので、そこでいったん終了となります。

意味のわからない苦痛 指示書

- グループのメンバーに伝えてほしい図形があります。その絵を渡しますので、他のメンバーには見せないようにお願いします。

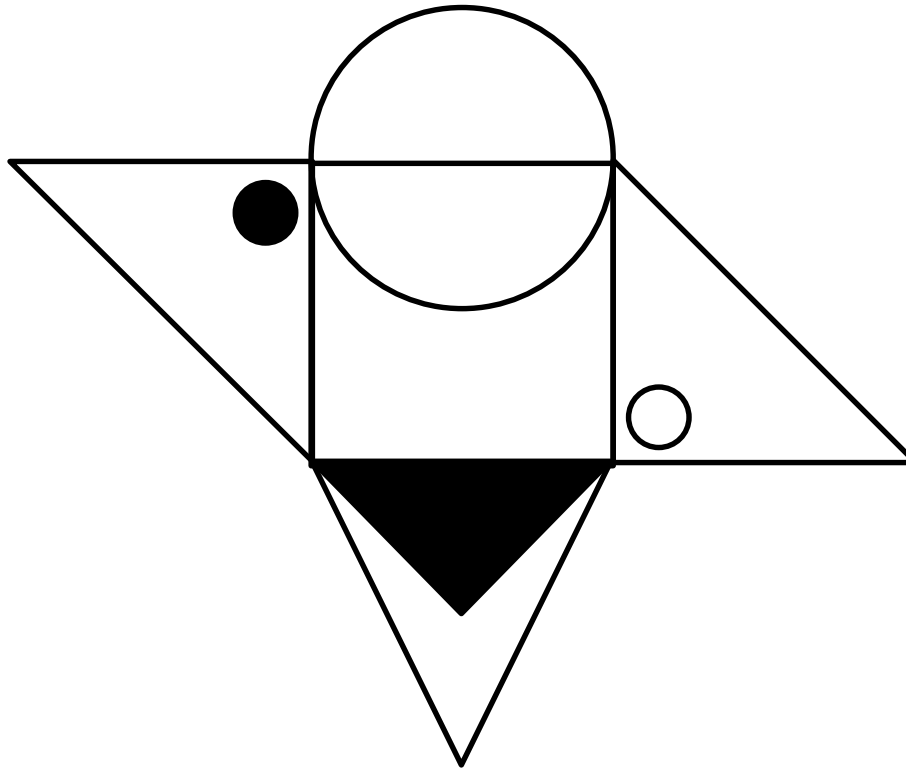


演習 1 -体験Ⅱ 意味のわからない苦痛②

- いったん終了して次のように全体に話します。
 - 1) さて、また再開しますが、ここからはパフォーマンス役の方は、心を鬼にさせていただきます。
 - 2) 自分の指示どおりに図をかけていない人や筆が進まない人に対して「何回言ったらわかるの！」「そうじゃないでしょ！」「ちゃんとやりなさい！」などの言葉を浴びせてください。
- 後半も5分の時間枠で考えておきましょう。

何言ってたのか...

スライドで解答を示します。



演習 1 -体験Ⅱ 意味のわからない苦痛③

- この体験はパフォーマンス役以外の方がターゲットなので、いくつかのグループメンバーの方に聞いてみます。残り時間の量で尋ねる人数を調整します。

Q：ここでの体験で、強度行動障害の方々の困惑についてみなさんは何を感じたのでしょうか。

A：いろいろな回答が出てくるかもしれませんが、少なくとも、【コミュニケーション（理解）の苦労】に関する発言は引き出したいところです。また、【状況の理解の難しさなど、社会性の困難】に触れるような発言も期待したいです。

演習 1 -体験Ⅱ 意味のわからない苦痛④

- 使用するもの：指示書
- 特性確認シートとのリンクでは…

診断の基準に関する項目		【1】診断の基準に関係する行動の特性 現れている行動の例	具体的な行動	【2】その行動の背景にある要因として考えられること (認知・記憶／注意・集中／運動・姿勢などの特性も含む)
社会性の特性	人や集団との関係に難しさがある	人とかかわりが一方的である 相手の気持ちに関係なく行動する 一人であることを好む 同世代の人と上手に付き合うことができない 人が多いところが苦手である 複数の人といっしょに活動することが難しい 周囲の様子から期待されていることを理解することが苦手である 他者に求められていることと自分に求められていることの区別が難しい	例えば、赤枠を付けた部分と体験との関連は受講者に伝えておきたい（黄枠部分は受講者の感想の中で触れられる可能性があることを想定しておく。もちろん他にも出てくるかもしれないが）。	見えないものの理解が難しい 曖昧なものの理解が苦手である 視線や雰囲気から読みとるのは苦手である 表情や声質など全体的な理解が苦手である 文字や数等、示された情報を理解することができない 情報の多いものやその処理が苦手である どこを見たらいいか、どこで活動したらいいかわからない 今あるいはさきしていたことを忘れてしまう 一緒に同じものを見て気持ちを通わせることが難しい／共感が少ない 気になることから抜けられない ものごとの関連性がわからない 刺激に影響されやすい 運動や手先の使い方が不得手で活動をこなせない 姿勢や動きがぎこちないためにやる気がないように見える 時間の流れを頭の中で組み立てられない 終わりが理解しにくい 手順が思いつかない ひとつの活動に集中しきれない その他
	状況の理解が難しい	年齢相応の常識(社会的なルール)が身につけていない その場にふさわしい(安全・迷惑等に配慮した)行動がとれない 周囲にどのように見られているかわからない 周囲のことに興味を示さない 活動への参加が難しい 自分勝手な行動をしているように見える 待つのが苦手である 自由時間を上手に使うことができない 危険と思われる行動をしてしまう		見えないものの理解が難しい ものごとの関連性がわからない 情報の多いものやその処理が苦手である 細部に着目してしまう 刺激に影響されやすい 聴覚に過敏がある(音・声など) 理解するのに時間がかかる 言葉の記憶の保持が難しい 音声言語でうまく伝えられない 誰に伝えたらいいかわからない どうやって伝えたらいいかわからない やりとりをすること自体の意味がわからない 興味関心が強く狭い 相手の気持ちや状況の理解が難しい 言葉を処理する速度が他者と異なる その他
コミュニケーションの特性	理解が難しい	言語で指示をしてもすぐに行動ができない／指示されたことと違うことをする 決まりきった場面での言葉はわかるが状況が変わるとわからないことがある 相手の話の全体ニュアンスを理解することが難しい 相手の表情や視線、気持ちを読むことが苦手である／特定の表情や雰囲気だけに過剰に反応する 短い言葉でないといわからない(短い言葉ならわかることもある) 相手の言葉をそのまま繰り返すことがある(反響言語・エコーリア) 言葉の意味を勘違いすることがよくある(見て理解が得意) 抽象的で曖昧な(ちよっと、ゆっくり、なんとなく、だいたいなど)表現の理解が難しい 冗談や駄洒落、慣用句などが理解できない／字義通りの理解(言外の意味を把握できない)		
	発信が難しい	行動(かんしゃく・パニック・身体表現・クレームなど)で気持ちを伝える コマーシャルやアニメの台詞は言っても伝える手段で言葉を使えない 自分にかかわらない言い方で伝えることがある(帰りたいなどと「りんご」と言うなど) 言葉の特定の機能しか使えない(要求のみ・あいさつのみ) 返事が相手の言葉の繰り返しになりやすい(反響言語) この場所ではこの台詞、この人とはこの台詞とお決まりの台詞が多い 文法が使えない(単語・二語文)／使っても助詞(がのにを)を間違える		
	やり取りが難しい	視線が合わない／アイコンタクトが取れない やりとりができない／かみあわない やりとりが続かない 唐突に話し出す／自分が知ることは相手も知っている前提で話をしてしまう 理解と発信の状態のアンバランスさが大きい		

演習 1-体験Ⅲ 見通しのもてない不安や恐怖①

- この体験は一斉に行います。そして、次のように全体に伝えます。
 - 1) みなさんがするのは、「両足ジャンプ」か「全カバンザイ」か「気合いだポーズ (by アニマル氏)」のどれかです。自分で好きなものを選んでください。
 - 2) まずは10回やります。
- 10回終わったら、回数を追加したり、あと1分やりましょうと言ったり、終了目安を言わずに「もう少し頑張りましょう」と言ったりします。あるいは休憩をはさんでもいいです。その休憩も突然再開してもいいでしょう。
- 長くても7分くらいで終了しましょう。それなりの運動量ですし、数分の休憩も必要です。

演習 1-体験Ⅲ 見通しのもてない不安や恐怖②

- この体験は全員がターゲットなので、いくつかのグループメンバーの方に聞いてみます。残り時間の量で尋ねる人数を調整します。

Q：ここでの体験で、強度行動障害の方々の困惑についてみなさんは何を感じたでしょうか。

A：いろいろな回答が出てくるかもしれませんが、少なくとも、【見通しや終わりを想像できなかったり優先順位をつけられなかったりする苦勞（想像力）や【全体のニュアンスを理解できないコミュニケーション（理解）の難しさ】 【時系列を整理することの苦手さ（認知・記憶）】あたりの発言は引き出したところです。また、【運動・姿勢】に関する発言もあっていいかと思います。

演習 1-体験Ⅲ 見通しのもてない不安や恐怖③

- 使用するもの：
特にはないですが、ある程度の空間は
あったほうがいいです。
- 特性確認シートとのリンクでは…
→次のスライドで

診断の基準に關係する項目		現れている行動の例	具体的な行動
社会性の特性	人や集団との関係に難しさがある	人とかかわりが一方的である 相手の気持ちに關係なく行動する 一人でいることを好む 同世代の人と上手に付き合うことができない 人が多いところが苦手である 複数の人といっしょに活動することが難しい 周囲の様子から期待されていることを理解することが苦手である 他者に求められていることと自分に求められていることの区別が難しい	
	状況の理解が難しい	年齢相応の常識(社会的なルール)が身につけていない その場にふさわしい(安全・迷惑等に配慮した)行動がとれない 周囲にどのように見られているかわからない 周囲のことに興味を示さない 活動への参加が難しい 自分勝手な行動をしているように見える 待つのが苦手である 自由時間を上手に使うことができない 危険と思われる行動をしてしまう	
コミュニケーションの特性	理解が難しい	言語で指示をしてもすぐに行動ができない／指示されたことと違うことをする 決まりきった場面での言葉はわかるが状況が変わるとわからないことがある 相手の話の全体ニュアンスを理解することが難しい 相手の表情や視線、気持ちを読むことが苦手である／特定の表情や雰囲気だけに過剰に反応する 短い言葉でないとわからない(短い言葉ならわかることもある) 相手の言葉をそのまま繰り返すことがある(反響言語・エコラリア) 言葉の意味を勘違いすることがよくある(見て理解が得意) 抽象的で曖昧な(ちょっと、ゆつり、なんとなく、だいたいなど)表現の理解が難しい 冗談や駄洒落、慣用語などが理解できない／字義通りの理解(言外の意味を把握できない)	
	発信が難しい	行動(かんしゃく・パニック・身体表現・クレーンなど)で気持ちを伝える コマーシャルやアニメの台詞は言っても伝える手段で言葉を使えない 一言にしかわからない言い方で伝えることがある(「りんご」と言うなど) 言葉の特定の機能しか使えない(要求のみ・あいさつのみ) 返事が相手の言葉の繰り返しになりやすい(反響言語) この場所ではこの台詞、この人とはこの台詞とお決まりの台詞が多い 文法が使えない(単語・二語文)／使っても助詞(のにを)を間違える	例えば、赤枠を付けた部分と体験との関連は受講者に伝えておきたい(黄枠部分は受講者の感想の中で触れられる可能性があることを想定しておく。もちろん他にも出てくるかもしれないが)。
	やり取りが難しい	視線が合わない／アイコンタクトが取れない やりとりができない／かみあわない やりとりが続かない 唐突に話し出す／自分が知ることは相手も知っている前提で話をしてしまう 理解と発信の状態像のアンバランスさが大きい	
想像力の特性	変化への対応困難	自分のルールを変えられることに抵抗がある／必要があっても変更できない 日課が変わる、担当者が変わる、場所が変わるなどの変更にも弱い 活動の途中で止められると対応できない 新規場面(初めてのこと)が苦手である 段取りを組んだり、優先順位をつけたりすることが苦手である	
	物の一部に対する強い興味	標識、ロゴ、数字、テレビCM、電車、DVDの繰り返しの再生などの一部分に執着する 必要があっても、自分の興味のないものに関心を示すことができない 細かいことが気になってひっかかる 声をかけても聞こえていないようにふるまうことがある	
	常同・反復的な行動	同じ場所に置きたい、同じ角度にしたいなどのこだわりがある 同じ行動や活動、同じ言葉を何度も繰り返す／長時間続ける 手順、日課、道順など、自分なりのルールが多くある	
感覚の特性	感覚が敏感・鈍感	聴覚/耳を塞ぐ、特定の音を嫌がる、怖がる、特定の音を大音量にしたがるなど 視覚/眩しがる、目を閉じる、帽子やフードを目深にかぶる、キラキラに没頭するなど 触覚/同じ素材の服しか着たがらない、爪切り、歯磨き、洗髪、散髪などで激しく抵抗するなど 臭覚/刺激臭を好む、特定の臭いを極端に嫌うなど 味覚/著しい偏食、特定の刺激の強い味を好む、同じものばかり食べるなど その他/目が回らない、ロッキングが多い、高い場所が好きなど その他/体温調整や気圧の変化への対応の苦手さがあるなど その他/力加減がうまくできないなど	見えないものの理解が難しい 曖昧なものの理解が苦手である 視線や雰囲気から読みとるのは苦手である 表情や声質など全体的な理解が苦手である 文字や数等、示された情報を理解することができない 情報の多いものやその処理が苦手である どこを見たらいいか、どこで活動したらいいかわからない 今あるいはさきしていたことを忘れてしまう 一緒に同じものを見て気持ちを通わせることが難しい／共感が少ない ものごとの関連性がわからない 刺激に影響されやすい 運動や手先の使い方が不得手で活動をこなせない 姿勢や動きがぎこちないためにやる気がないように見える 時間の流れを頭の中で組み立てられない 終わりが理解しにくい 手順が思いつかない ひとつの活動に集中しきれない その他
			見えないものの理解が難しい ものごとの関連性がわからない 情報の多いものやその処理が苦手である 細部に着目してしまう 刺激に影響されやすい 聴覚に過敏がある(音・声など) 理解するのに時間がかかる 言葉の記憶の保持が難しい 音声言語ではうまく伝えられない 誰に伝えたらいいかわからない どうやって伝えたらいいかわからない やりとりをすること自体の意味がわからない 興味関心が強くて狭い 相手の気持ちや状況の理解が難しい 言葉を処理する速度が他者と異なる その他
			自分の(ひとつの)やり方から抜け出すことが難しい 変更があることの理解が難しい 興味関心が強くて狭い 集中しすぎると注意の移動が難しい その都度判断するのが苦手である 部分的な処理が強く全体の理解が苦手である 少しの違いで大きな不安が生じる 目から入った記憶に強く影響される 手がかりが変わるとわからなくなる やり方を覚えられず、自分のルールに戻ってしまう フラッシュバックと思われる混乱がある その他
			感覚に過敏がある 感覚に鈍麻がある 感覚の入出力のコントロールが難しい 鈍麻さを補うための自己刺激行動がある 疲労やストレスが感覚に影響を与えている その他

演習 1-体験Ⅳ 情報処理の困難①

- ここでは2つの体験をします。最初は一斉に行います。全体には次のように話します。
 - 1) 魚への漢字を見てもらいます。その中で、3回登場する漢字が2つあります。それは何でしょう？すぐに見つけられますよね。
 - 2) では、みなさんいっせいにお立ちください。見つけた人から座っていきます。見つけられない人は、ずーっと立っていきましょう。
- そして、スライドを見せます。1分くらいして見る範囲を狭めるように枠を掛け、さらに2分くらいしてもっと範囲を狭めます。
- 途中「真剣に探しましょう」「まだ見つけられないんですか」などと言うのもアリです。
- 5分ほどで解答スライドを見せます。

見つかりましたか

念押しの解答スライドです。

鯨（クジラ）と鮪（イルカ）

演習 1 -体験Ⅳ 情報処理の困難②

- 次のように全体に話します。
 - 1) 続いては、2人組ないしは3人組になります。3人組の場合は、2人vs3人で行います。
 - 2) まず、先攻後攻を決めましょう。
 - 3) 受け手は、1から順にひたすら数を数え続けます。攻め手は「苦手な食べ物は何ですか？」等の質問をどんどんします。受け手はその都度質問に答え、答え終わったらまた途中から数を数えます。それを制限時間内で繰り返します。時間がきたら攻守交代です。
 - 4) 受け手になった人が体験のターゲットです。
- 上限の時間は5分です（2分から2分半で攻守交代）。

演習 1 -体験Ⅳ 情報処理の困難③

- この体験は全員がターゲットなので、いくつかのグループメンバーの方に聞いてみます。残り時間の量で尋ねる人数を調整します。

Q：ここでの体験で、強度行動障害の方々の困惑についてみなさんは何を感じたのでしょうか。

A：いろいろな回答が出てくるかもしれませんが、少なくとも、【複数情報の処理の難しさ（認知・記憶）】や【注意・集中の偏り】等の発言は引き出したいところです。また、【気になるところに強い興味を抱いてしまう想像力の困難】に関する発言もあっていいかと思います。

演習 1 -体験Ⅳ 情報処理の困難④

- 使用するもの：問題用及び解答用スライド
- 特性確認シートとのリンクでは…
→次のスライドで

診断の基準に關係する項目		【1】診断の基準に關係する行動の特性		【2】その行動の背景にある要因として考えられること (認知・記憶／注意・集中／運動・姿勢などの特性も含む)	
		現れている行動の例	☑	具体的な行動	☑
社会性の特性	人や集団との関係に難しさがある	人とかかわりが一方的である 相手の気持ちに關係なく行動する 一人でいることを好む 同世代の人と上手に付き合うことができない 人が多いところが苦手である 複数の人といっしょに活動することが難しい 周囲の様子から期待されていることを理解することが苦手である 他者に求められていることと自分に求められていることの区別が難しい			見えないものの理解が難しい 曖昧なものの理解が苦手である 視線や雰囲気から読みとるのは苦手である 表情や声質など全体的な理解が苦手である 文字や数等、示された情報を理解することができない 情報の多いものやその処理が苦手である どこを見たらいいか、どこで活動したらいいかわからない 今あるいはさっきしていたことを忘れてしまう 一緒に同じものを見て気持ちを通わせることが難しい／共感が少ない 気になることから抜けられない ものごとの関連性がわからない 刺激に影響されやすい 運動や手先の使い方が不得手で活動をこなせない 姿勢や動きがぎこちないためにやる気がないように見える 時間の流れを頭の中で組み立てられない 終わりが理解しにくい 手順が思いつかない ひとつの活動に集中しきれない その他
	状況の理解が難しい	年齢相応の常識(社会的なルール)が身につけていない その場にふさわしい(安全・迷惑等に配慮した)行動がとれない 周囲にどのように見られているかわからない 周囲のことに興味を示さない 活動への参加が難しい 自分勝手な行動をしているように見える 待つのが苦手である 自由時間を上手に使うことができない 危険と思われる行動をしてしまう			
コミュニケーションの特性	理解が難しい	言語で指示をしてもすぐ行動ができない／指示されたことと違うことをする 決まりきった場面での言葉はわかるが状況が変わるとわからないことがある 相手の話の全体ニュアンスを理解することが難しい 相手の表情や視線、気持ちを読むことが苦手である／特定の表情や雰囲気だけに過剰に反応する 短い言葉でないとわからない(短い言葉ならわかることもある) 相手の言葉をそのまま繰り返すことがある(反響言語・エコーリア) 言葉の意味を勘違いすることがよくある(見て理解が得意) 抽象的で曖昧な(ちよつと、ゆつくり、なんとなく、だいたいなど)表現の理解が難しい 冗談や駄洒落、慣用句などが理解できない／字義通りの理解(言外の意味を把握できない)			見えないものの理解が難しい ものごとの関連性がわからない 情報の多いものやその処理が苦手である 細部に着目してしまう 刺激に影響されやすい 聴覚に過敏がある(音・声など) 理解するのに時間がかかる 言葉の記憶の保持が難しい 音声言語ではうまく伝えられない 誰に伝えたいかわからない どうやって伝えたいかわからない やりとりをすること自体の意味がわからない 興味関心が強くて狭い 相手の気持ちや状況の理解が難しい 言葉を処理する速度が他者と異なる その他
	発信が難しい	行動(かんしゃく・パニック・身体表現・クレーンなど)で気持ちを伝える コマーシャルやアニメの台詞は言っても伝える手段で言葉を使えない 自分にしかわからない言い方で伝えることがある(帰りたいと「りんご」と言うなど) 言葉の特定の機能しか使えない(要求のみ・あいさつのみ) 返事が相手の言葉の繰り返しになりやすい(反響言語) この場所ではこの台詞、この人とはこの台詞とお決まりの台詞が多い 文法が使えない(単語・二語文)／使えても助詞(がのにを)を間違える		例えば、赤枠を付けた部分と体験との関連は受講者に伝えておきたい(黄枠部分は受講者の感想の中で触れられる可能性があることを想定しておく。もちろん他にも出てくるかもしれないが)。	
	やり取りが難しい	視線が合わない／アイコンタクトが取れない やりとりができない／かみあわない やりとりが続かない 唐突に話し出す／自分が知ることは相手も知っている前提で話をしてしまう 理解と発信の状態像のアンバランスさが大きい			
想像力の特性	変化への対応困難	自分のルールを変えられることに抵抗がある／必要があっても変更できない 日課が変わる、担当者が変わる、場所が変わるなどの変更に対応が弱い 活動途中で止められると対応できない 新規場面(初めてのことが)が苦手である 段取りを組んだり、優先順位をつけたりすることが苦手である			自分の(ひとつの)やり方から抜け出すことが難しい 変更があることの理解が難しい 興味関心が強くて狭い 集中しすぎると注意の移動が難しい その都度判断するのが苦手である 部分的な処理が強く全体の理解が苦手である 少しの違いで大きな不安が生じる 目から入った記憶に強く影響される 手がかりが変わるとわからなくなる やり方を覚えられず、自分のルールに戻ってしまう フラッシュバックと思われる混乱がある その他
	物の一部に対する強い興味	標識、ロゴ、数字、テレビCM、電車、DVDの繰り返し再生などの一部分に執着する 必要があっても、自分の興味のないものに関心を示すことができない 細かいことが気になってひっかかる 声をかけても聞こえていないようにふるまうことがある			
	常同・反復的な行動	同じ場所に置きたい、同じ角度にしたいなどのこだわりがある 同じ行動や活動、同じ言葉を何度も繰り返す／長時間続ける 手順、日課、道順など、自分なりのルールが多くある			
感覚の特性	感覚が敏感・鈍感	聴覚／耳を塞ぐ、特定の音を嫌がる、怖がる、特定の音を大音量にしたがるなど 視覚／眩しがる、目を閉じる、帽子やフードを目深にかぶる、キラキラに没頭するなど 触覚／同じ素材の服しか着たがらない、爪切り、歯磨き、洗髪、散髪などで激しく抵抗するなど 臭覚／刺激臭を好む、特定の臭いを極端に嫌うなど 味覚／著しい偏食、特定の刺激の強い味を好む、同じものばかり食べるなど その他／目が回らない、ロッキングが多い、高い場所が好きなど その他／体温調整や気圧の変化への対応の苦手さがあるなど その他／力加減がうまくできないなど			感覚に過敏がある 感覚に鈍麻がある 感覚の入出力のコントロールが難しい 鈍麻を補うための自己刺激行動がある 疲労やストレスが感覚に影響を与えている その他

演習 1 -体験Ⅴ 感覚の特異性①

- 次のように全体に話します。
 - 1) ここでは2つの体験をします。最初は一斉に行いますが、ターゲットになる方はグループで一人です。次の順にあたっている人がその役を担います。役割は「全体指示者の発する10の単語もしくはフレーズを聞き取る」です。メモをしてもかまいません。
 - 2) それ以外の方は、2人ないしは三人組をつくります。「しりとり」か「あっちむいてホイ」か「山手線ゲーム」のどれかを心ゆくまで楽しみます。
 - 3) さて、ターゲットになる方は、いくつ聞き取れるでしょうか。では、ターゲットになる方以外のみなさん、何も気にせず楽しんでください。
- 上限時間を5分くらいで行います。
- ターゲットの方に聞き取れた単語を聞きます。

聞き取れましたか

解答スライドを示します。

東ティモール民主共和国

犬も歩けば棒にあたる

東海道新幹線

オールインワン

NHKタイガードラマ

明智三ツツ秀

スーパーマリオシスターズ

焼肉焼き放題

3年B組金髪先生

バンジー少年ジャンプ

演習 1 -体験V 感覚の特異性②

- 次のように全体に話します。
 - 1) 2つめの体験は、2人ないしは3人組で行います。3人組の場合は、1人vs2人で行います。
 - 2) まず、先攻後攻を決めましょう。
 - 3) 受け手は、目をつぶって手のひらを出します。攻め手は、ハンカチ・ウェットティッシュ・サンドペーパーのどれかで手のひらをこすります。何でこするかはアトランダムにしてください。
 - 4) 受け手になった人が体験のターゲットです。
- ここで、ハンカチを用意してもらい、ウェットティッシュとサンドペーパーをグループに配ります。
- 上限の時間は5分です（2分から2分半で攻守交代）。

演習 1 -体験Ⅴ 感覚の特異性③

- この体験はターゲット役の人もありますし、全員がターゲットになる場もありますので、ターゲット役及びグループメンバーの方半々くらいに聞いてみます。残り時間の量で尋ねる人数を調整します。

Q：ここでの体験で、強度行動障害の方々の困惑についてみなさんは何を感じたのでしょうか。

A：いろいろな回答が出てくるかもしれませんが、少なくとも、【聴覚処理や触覚の過敏さといった感覚のこと】に関する発言は引き出したいところです。また、【見えないものの理解が難しい想像力の問題】に関する発言もあっていいかと思います。

演習 1 -体験 V 感覚の特異性④

- 使用するもの：

ハンカチ

ウェットティッシュ

サンドペーパー

(5 cm角くらい・粗目のもの)

※何を使うかを見せずにブラックボックス的に用意するのもあります。
その場合は交代制ではなく、どちらか一方がターゲットになります。

- 特性確認シートとのリンクでは…
→次のスライドで

【1】診断の基準に関係する行動の特性

【2】その行動の背景にある要因として考えられること
(認知・記憶／注意・集中／運動・姿勢などの特性も含む)

診断の基準に関する項目		現れている行動の例	具体的な行動
社会性の特性	人や集団との関係に難しさがある	人とかかわりが一方的である 相手の気持ちに関係なく行動する 一人であることを好む 同世代の人と上手に付き合うことができない 人が多いところが苦手である 複数の人といっしょに活動することが難しい 周囲の様子から期待されていることを理解することが苦手である 他者に求められていることと自分に求められていることの区別が難しい	
	状況の理解が難しい	年齢相応の常識(社会的なルール)が身につけていない その場にふさわしい(安全・迷惑等に配慮した)行動がとれない 周囲にどのように見られているかわからない 周囲のことに興味を示さない 活動への参加が難しい 自分勝手な行動をしているように見える 待つのが苦手である 自由時間を上手に使うことができない 危険と思われる行動をしてしまう	
コミュニケーションの特性	理解が難しい	言語で指示をしてもすぐに行動ができない／指示されたことと違うことをする 決まりきった場面での言葉はわかるが状況が変わるとわからないことがある 相手の話の全体ニュアンスを理解することが難しい 相手の表情や視線、気持ちを読むことが苦手である／特定の表情や雰囲気だけに過剰に反応する 短い言葉でないといわれない(短い言葉ならわかることもある) 相手の言葉をそのまま繰り返すことがある(反響言語・エコラリア) 言葉の意味を勘違いすることがよくある(見て理解が得意) 抽象的で曖昧な(ちよっと、ゆつくり、なんとなく、だいたいなど)表現の理解が難しい 冗談や駄洒落、慣用句などが理解できない／字義通りの理解(言外の意味を把握できない)	
	発信が難しい	行動(かんしゃく・パニック・身体表現・クレーンなど)で気持ちを伝える コマーシャルやアニメの台詞は言っても伝える手段で言葉を使えない 自分にしかわからない言い方で伝えることがある(掃りたくなると「りんご」と言うなど) 言葉の特定の機能しか使えない(要求のみ・あいさつのみ) 返事が相手の言葉の繰り返しになりやすい(反響言語) この場所ではこの台詞、この人とはこの台詞とお決まりの台詞が多い 文法が使えない(単語・二語文)／使っても助詞(がのにを)を間違える	例えば、赤枠を付けた部分と体験との関連は受講者に伝えておきたい(黄枠部分は受講者の感想の中で触れられる可能性があることを想定しておく。もちろん他にも出てくるかもしれない)。
	やり取りが難しい	視線が合わない／アイコンタクトが取れない やりとりができない／かみあわない やりとりが続かない 唐突に話し出す／自分が知ることは相手も知っている前提で話をしてしまう 理解と発信の状態像のアンバランスさが大きい	
変化への対応困難	自分のルールを変えられることに抵抗がある／必要があっても変更できない 日課が変わる、担当者が変わる、場所が変わるなどの変更に弱い 活動の途中で止められると対応できない 新規場面(初めてのこと)が苦手である 段取りを組んだり、優先順位をつけたりすることが苦手である		
想像力の特性	物の一部に対する強い興味	標識、ロゴ、数字、テレビCM、電車、DVDの繰り返しの再生などの一部分に執着する 必要があっても、自分の興味のないものに関心を示すことができない 細かいことが気になってひっかかる 声をかけても聞こえていないようにふるまうことがある	
	常同・反復的な行動	同じ場所に置きたい、同じ角度にしたいなどのこだわりがある 同じ行動や活動、同じ言葉を何度も繰り返す／長時間続ける 手順、日課、道順など、自分なりのルールが多くある	
感覚の特性	感覚が敏感・鈍感	聴覚/耳を塞ぐ、特定の音を嫌がる、怖がる、特定の音を大音量にしたがるなど 視覚/眩しがる、目を閉じる、帽子やフードを目深にかぶる、キラキラに没頭するなど 触覚/同じ素材の服しか着たがらない、爪切り、歯磨き、洗髪、散髪などで激しく抵抗するなど 臭覚/刺激臭を好む、特定の臭いを極端に嫌うなど 味覚/著しい偏食、特定の刺激の強い味を好む、同じものばかり食べるなど その他/目が回らない、ロッキングが多い、高い場所が好きなど その他/体温調整や気圧の変化への対応の苦手さがあるなど その他/力加減がうまくできないなど	
			見えないものの理解が難しい 曖昧なものの理解が苦手である 視線や雰囲気から読みとるのは苦手である 表情や声質など全体的な理解が苦手である 文字や数等、示された情報を理解することができない 情報の多いものやその処理が苦手である どこを見たらいいか、どこで活動したらいいかわからない 今あるいはさききしていたことを忘れてしまう 一緒に同じものを見て気持ちを通わせることが難しい／共感が少ない 気になることから抜けられない ものごとの関連性がわからない 刺激に影響されやすい 運動や手先の使い方が不得手で活動をこなせない 姿勢や動きがぎこちないためにやる気がないように見える 時間の流れを頭の中で組み立てられない 終わりが理解しにくい 手順が思いつかない ひとつつの活動に集中しきれない その他
			見えないものの理解が難しい ものごとの関連性がわからない 情報の多いものやその処理が苦手である 細部に着目してしまう 刺激に影響されやすい 聴覚に過敏がある(音・声など) 理解するのに時間がかかる 言葉の記憶の保持が難しい 音声言語ではうまく伝えられない 誰に伝えたらいいかわからない どうやって伝えたらいいかわからない やりとりをすること自体の意味がわからない 興味関心が強く狭い 相手の気持ちや状況の理解が難しい 言葉を処理する速度が他者と異なる その他
			自分の(ひとつの)やり方から抜け出すことが難しい 変更があることの理解が難しい 興味関心が強くて狭い 集中しすぎると注意の移動が難しい その都度判断するのが苦手である 部分的な処理が強く全体の理解が苦手である 少しの違いで大きな不安が生じる 目から入った記憶に強く影響される 手がかりが変わるとわからなくなる やり方を覚えられず、自分のルールに戻ってしまう フラッシュバックと思われる混乱がある その他
			感覚に過敏がある 感覚に鈍麻がある 感覚の入出力のコントロールが難しい 鈍麻さを補うための自己刺激行動がある 疲労やストレスが感覚に影響を与えている その他

話し合いと発表

■ A4 「話し合い記録メモ」を使います

- 全体に次のように話します。
 - 1) 順に従って、進行役・記録役・発表役の方を確認し、ワークシートに沿って話し合いを進めましょう。
 - 2) 発表役の方が、グループで話し合われたことを報告します。
出された意見や感想のいくつかをお話してください。発表時間は1分とします。
 - 3) すべてのグループが発表できないかもしれません。あらかじめご了承ください。
- 話し合い20分、発表15分が時間のメドですが、残り時間を考えて配分を調整します。
- 話し合い記録メモは、研修中に掲示しておいてもいいでしょう。

話し合い記録メモ	
演習名	強度行動障害の理解④-困っていることの体験
グループメンバー	
1. 体験の中で自分が感じたこと	
2. グループでの話し合いの中で気付いたこと	
3. その他	